

## 正常化への第一歩

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事・相談役)

日銀は3月19日の政策決定会でマイナス金利の解除とイーロード・カーブ・コントロール廃止を決定しました。13年3月以来の異次元金融緩和に終止符が打たれました。植田和男日銀総裁は「物価と賃上げの好循環が見通せた」として、11年間続いた大規模な金融緩和政策の終了を宣言しました。マスメディアは盛んに17年ぶりの金利引き上げと報じていますが、マイナス金利を解除してゼロ金利に戻したということです。

ここで重要なのは、植田総裁も言明しているように異次元の金融緩和政策から普通の政策に移行したということです。この結果、金融市場は正常な市場機能を取り戻すことが出来ます。金利政策も本来の市場誘導型に回帰するでしょう。2013年以来的のアベノミクスは金融政策と財政出動に寄りかかった政策でした。金利のないぬるま湯に慣れ切った日本の社会もやっと正常な社会に戻ることにあります。当面は緩和的な金融環境が続くとしても、いずれは金利引き上げに向かうでしょう。今年の春闘では連合の中間集計で5・28%の賃上げ増になりました。物価上昇に見合うという観点から望ましい結果ではありますがこの背景にあるのは人手不足の深刻化です。コロナ禍が明けて正常な日常が戻ってきたと

きに企業が直面したのは深刻な採用難でした。団塊の世代が大量にリタイアし、少子化で新卒採用が難しくなった今、企業の選択肢は待遇改善しかありません。従って賃上げの動きはこれからも続くことになるでしょう。

コストが増加する中で企業は収益力を高めるしかありません。収益機会を探し、新たな設備投資を行う動きが高まっています。ぬるま湯の中で、ひたすら余剰資金をため込んできた企業がやっと投資に前向きになりつつあります。金融政策の転換は、こうした企業の背中を押すことになるでしょう。

日銀の決定を受けて政府はデフレ脱却宣言を出すことを検討していると報じられています。今年度予算の成立後、もしくは国会会期末に国会を解散、総選挙に打って出るということも

のです。デフレ脱却はアベノミクスが掲げた目標です。アベノミクスの柱であった超金融緩和の終了はデフレ脱却の実現を意味しているというわけです。

しかし、アベノミクスの下で長期にわたった景気拡大は、それが低成長であっても、すでにデフレ状態ではなかったことを意味しています。政府のプロパガンダを鵜呑みにしてデフレ脱却を繰り返したマスメディアはあまりにも無知でした。

いずれにしてもデフレ脱却宣言は長く続いたアベノミクスの呪縛からの解放を意味します。企業も個人も正常な経済運営の下で当たり前の経済行動を取り戻すしかありません。そろそろ日本社会もぬるま湯を出て正気を取り戻してもいいころです。